



道徳だより

2025.9.17 号
みよし市立緑丘小学校



道徳の教科書に掲載されている教材は学習指導要領で示されている四つの視点で整理されています。道徳の内容を考える際、この四つの視点のそれぞれの特徴がとても参考になります。お子さんの持っている教科書の一番最後のページにそれぞれの教材がどの視点になるのかが一覧表でまとまっていますので一度ご覧いただくと分かりやすいと思います。

- | |
|--------------------------------------|
| A の視点・・・「主として自分自身に関すること」 |
| B の視点・・・「主として人との関わりに関すること」 |
| C の視点・・・「主として集団や社会との関わりに関すること」 |
| D の視点・・・「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」 |

A の視点

この内容は【自分との闘い】です。私たちはつい自分の中にある弱さに負けてしまいがちです。でも、自分の中には正しいことをしようとする心、自分のよさ、これではだめだという気持ちなどがきちんとあるのです。それを信じて、自分の弱さに打ち克つこと。そして、打ち克ったとき心の中に、喜びや自分に対する自信をもち成長して大きくなった自分を意識することができます。

B の視点

私たちは相手のことを考え、相手のために自分ができることをしようとする思いがあります。ところが、それを阻むのが「自分」です。「自分のことを分かってほしい」「認めてほしい」「感謝してほしい」といった思いが、ムクムクと湧き起こってくるのです。しかし、自分は、相手のためにできることを懸命に考えていたはずで、相手のために自分を犠牲にするのではないのです。素直に、ひたすら、相手のために思っていたのです。さらに、相手は自分にはないよさをたくさんもっています。相手から素直に学ぶことも大切です。これらのことを再認識し、相手に対して自分が今なすべきことを考えるのです。



C の視点

私たちは、決して、一人で生きていくことはできません。必ず何らかの集団や社会の中で生きています。しかし、私たちはそれを忘れ、自分一人で生きているように思ってしまいます。集団や社会の中で生きているということは、自分もまた、それを構成するメンバーの一人である、すなわち自分も仲間の一人ということです。そうすると、誰かがすればよいと思っていることは、当然、自分自身にも向けられます。「誰か」の中に自分もいるのです。集団や社会の向上の責任は、自分も担っているのです。

D の視点

生命、自然、美しさ、人間はとても小さく弱いものです。しかし、同時に、それらは、とてつもない大きさ、強さ、重さ、広さ、深さをもっているのです。このことを謙虚に受け止め、その大きさ、強さ、重さ、広さ、深さの内実を考えることが、それらを尊重する心へとつながっていくのです。

